

2007年度 森泰吉郎記念研究振興基金 研究助成金「研究者育成費 修士課程・博士課程」成果報告書

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 修士一年 西田亮介

ryosuke[at]sfc.keio.ac.jp

([at]を@に変えて下さい)

研究題目：「コンテンツ商材の歴史的解析手法の開発-定量的手法と定性的手法の融合を目指して-

■ 研究成果

・ 研究の経緯

従来、音楽と歌詞の分析は批評的な手法を用いた分析・解釈が主流を占めていた。

それを担ってきたのは、主に社会学やカルチュラル・スタディーズの分野である。しかし、そうした研究手法は、印象論、主観的な当てはめとしていけないケースも多い。

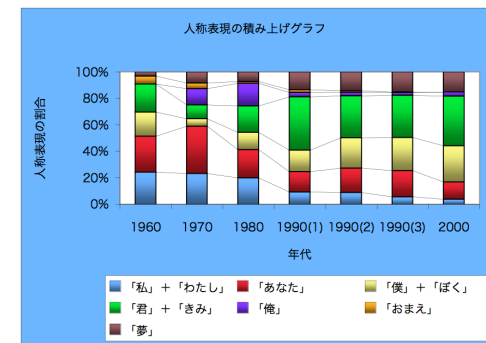
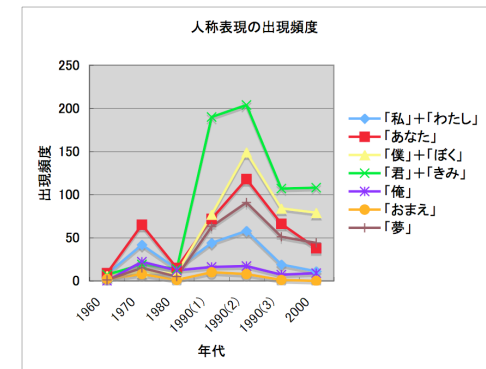
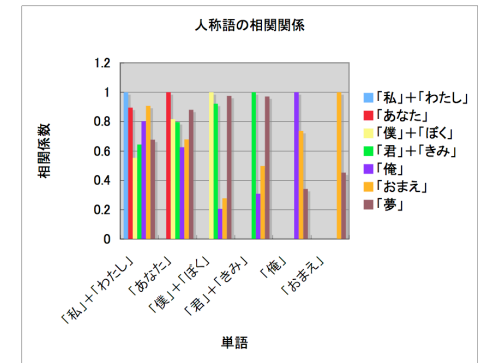
また、近田春夫『考えるヒット』のような音楽製作の当事者による内実や問題意識を暴露したテキストの前では、その「解釈」の言説は失効する。

そうした現状を前に、私の問題意識は歌詞中の単語の共起関係に注目しつつ、新しい定量的なアプローチを試みることであった。共起関係を可視化する「KeyGraph」を使用して、単語の共起関係を可視化し、解釈を試みた。

その結果、ヒット曲（歴代上位300曲）中に、代々「わたし-あなた」という語が共起しつづけていることが定量的にも明らかになった。また、1990年代中期以降「夢」が重要なキーワードになっていることも同様に明らかになった。

・ 今後の展望

さらに詳細な統計的なアプローチを実施することと、データ収集のためのクローラー・ソフトを作成し、より大規模なデータ上でも、こうした共起関係が存在するのかということ进行分析し、定量的な歌詞分析を実現したい。



■ 研究成果の学会報告

西田亮介, 井庭崇 「単語の共起関係でみる歌詞の時代変化」@jwein' 07, 産総研, 2007年 8月19日

西田亮介, 井庭崇 「KeyGraphによる内容分析 -ヒット曲の人称表現の変化分析-」@ NetecoSum07, 富士教育研修所,
2007年 9月3-5日

西田亮介, 井庭崇 「共起関係分析手法によるポピュラー音楽の歌詞分析と共感の考察」@第80回日本社会学会全国大会, 関東学院大学, 2007年11月18-19日

■ 参考文献

井庭崇 (2007) 「新しいシステム観にもとづく思考と実践」 『未来心理 vol.009 07 SPRING』 モバイル社会研究所

大澤 幸生 (2006) 『チャンス発見のデータ分析: モデル化+可視化+コミュニケーション→シナリオ創発』 東京電機大学出版局

見田宗介 (1978) 『近代日本の心情の歴史 - 流行歌の社会心理史 - 』 講談社

見田宗介 (1995) 『現代日本の感覚と思想』 講談社

宮台真司・石原英樹・大塚明子 (1993) 『サブカルチャー神話解体 少女・音楽・マンガ-性の30年とコミュニケーションの現在』 バルコ出版

■ 謝辞

安定して研究に取り組める資金的援助を行って頂いた森基金と関係各位に深く感謝します。